

平成26年度 事務事業評価シート

事務事業名		小学校給食生ごみ処理				所管	教育委員会 学務課		
事務事業の概要	行政計画	なし	事業NO.		計画事業名	事業の開始・終了年度			
	長期総合計画体系	[基本目標]					[事業開始] 平成10年度		
		[小 柱]					[終了予定] - 年度		
		[施 策]							
	根拠法令等	その他	〔法令等名〕						
	事業対象	区立小学校在籍児童							
	事業目的	学校給食によって排出される生ごみの減量化と環境教育の充実を図る							
	事業内容	生ゴミ処理機の保守点検、修繕、生成物の引き取り 生ごみの回収及び資源化委託							
委託の有無	一部委託	委託内容	生ゴミ処理機の保守点検、生成物の引き取り 生ごみの回収及び資源化加工						
補助金の有無	なし								
事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (27年度)	23年度	24年度	25年度		
	活動指標	一人分年間生ゴミ量	(kg)	10	12	12	12		
		生ゴミ処理機の設置台数	(台)	-	19	19	17		
	成果指標	給食用生ゴミの処理率	(%)	100.0	82.6	68.9	80.0		
		決算額 (単位：千円)				3,177	4,063	3,211	
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト (人件費など)			900	833	852		
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)			3,178	4,064	3,212		
		その他のコスト (扶助費・補助費など)			0	0	0		
		総経費			4,078	4,897	4,064		
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)			0	0	0		
その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0				
一般財源 (区負担額)			4,078	4,897	4,064				
前年度から改善した事項	生ゴミ処理機の老朽状況を見極めながら、資源化回収委託を進めていく。25年度は2校を回収委託へ切替。								
評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	3	ゴミの減量化は区の環境行政における大きな課題であり、環境教育の推進上必要である。						
	効率性	3	処理機の老朽化に伴い、維持管理のコスト等の効率性を考え、今後は回収、資源化加工委託していく。						
	手段の適切性	3	19校の給食生ごみ処理は、回収しりサイクル施設での資源化加工委託が適切である。						
	目的達成度	3	老朽化により使用不能な処理機から順次切替えていく。						
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了		
庁内検討委員会において、今後の処理方法については、エネルギー資源化、飼料化等、環境教育の視点から、CO2排出削減の考え方を基本に導入していくという方向性とした。今後は処理機の買替に依らず、回収委託し資源化を図る。						維持			